

翔

2014
February
No.226
百万石蝶談会



小松市内でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を採集

佐藤卓也

石川県小松市内の自宅の庭で、ツマグロヒョウモンの越冬幼虫を採集し飼育したところ、4月11日に蛹化、4月27日に1♂が羽化したので報告する。

2013年4月2日 小松市大文字町 ツマグロヒョウモン 終齢幼虫1頭採集 佐藤卓也

自宅庭に置いてある植木鉢に、雑草のように生えているタチツボスミレで本種の幼虫を見たことはあるが、夏から秋にかけてであって、越冬幼虫を見たのは今回が初めてである。地面に置いてある枯れ枝の上を歩いているところを発見し採集したが、食草からは3m近く離れていた。



プラ鉢の前の枯れ木の上を幼虫が歩いている

部屋の中で朝の冷え込みが最も小さい冷蔵庫の上にケースを置いて飼育し、9日前蛹、11日蛹化、27日午後に羽化を見た。

飼育の際に、最初は庭のタチツボスミレと玄関の園芸品種のヴィオラ (*Viola x wittrockiana*) のうち、小輪多花の系統の「ピオラ」と呼ばれる物の2品種を与えた。しかし、タチツボスミレは葉をわずかに食べたのみ、ヴィオラは花卉をわずかに食べたのみであった。そのため、梯川（かけはしがわ）土手から取ったスミレ (*Viola mandshurica*) を与えたところ、こちらは大変活発に摂食したため、飼育後半はこの種のみを与えた。

なお、5月12日には、自宅のすぐ近くの龍助町の路上でツマグロヒョウモン1♀が飛ぶのを目撃している。こちらの個体も越冬幼虫から羽化したものと考えられる。

2013年5月12日 石川県小松市龍助町 ツマグロヒョウモン 1♀目撃 佐藤卓也

《参考文献》

浅地哲也 (2011) 庭で越冬していたツマグロヒョウモン. 翔(211):1.

奥素八子 (2002) 我が家の庭でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を観察. 翔(156):1.

松井正人 (2009) 石川県金沢市でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を観察. 翔(199):1.

《さとう たくや 〒923-0931 小松市大文字町129》

てっちゃんの甲虫も楽し その3

浅地 哲也

昆虫は楽しい。昆虫の面白さは、造形と色彩が非常に多様であることではないかと思う。この魅力を伝え残すための標本作りは、神経質で地道な作業だ。トンボの標本の色彩を残すのは大変難しいし、小型の甲虫の展足は苦行以外の何事でもない。(来年は採らないぞ!と思うが)近眼と老眼に苛まれながら上手く展足できたときは採集とは別の喜びがあるが、下手な展足を諸先輩から叱咤激励されながら精進の日々を送っている。臥薪嘗胆、いつの日か「倍返し」と心に誓って。ちなみに、採集時間よりも展足時間のほうが長く掛かっているため、採集品の整理が追いついていない。いつ追いつくの? このお正月休みの「今でしょ」と自分に言い聞かせているのだけでも。採集品の中に「じえじえじえ」(注1)な虫がいることを期待しつつ。

さて、その2でカッコつけたことを言ってしまったが、本来の趣旨は自宅に来る小さなお客さま(注2)への「おもてなし」である。圧倒的な人気を誇るのはクワガタ、やはり「大きい」ということが評価の尺度なのだろうか、力を入れて採集している小型のナガタムシには眼もくれてない様子。どれも同じように見えてしまう大きさ、造形と色彩がイマイチなのか、魅せる標本作りの道は険しい。

今回はゾウムシの記録を予定していたが、師匠が例会にご欠席されたため、記録するネタが少なくなってしまったことをお許し願いたい。

注1:筆者はこの文言が使用されたドラマを見たことは無い。採集時には分からないで採っているが、後でじっくり見ると思った虫と違う虫だったり、良い虫だったり。

注2:小さなお客様・・・「翔」No.223 「てっちゃんの甲虫も楽し その1」参照。

■カミキリムシの仲間

2013年6月4日	石川県金沢市坪野	ツヤケシハナカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月2日	石川県金沢市坪野	ベニカミキリ	4頭	浅地哲也
2012年7月28日	富山県南砺市医王山	シナカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年7月27日	石川県白山市白峰	シナカミキリ	1頭	浅地哲也
2009年7月12日	石川県金沢市打尾	ヤツメカミキリ	1頭	浅地哲也
2013年6月29日	石川県金沢市坪野	ヤツメカミキリ	1頭	浅地哲也

■タマムシの仲間

2013年6月23日	石川県金沢市大菱池町	ヒメヒラタタマムシ	3頭	浅地哲也
2013年7月27日	石川県白山市白峰	ヒメヒラタタマムシ	2頭	浅地哲也
2002年7月27日	石川県金沢市二俣町	アオナガタマムシ	1頭	浅地哲也
2013年6月23日	石川県金沢市大菱池町	シナノキチビタマムシ	3頭	浅地哲也
2013年9月22日	石川県金沢市倉ヶ嶽	シナノキチビタマムシ	9頭	浅地哲也
2013年9月23日	石川県金沢市医王山	シナノキチビタマムシ	10頭	浅地哲也

《あさじ てつや 〒921-8021 金沢市御影町26-21》

アカエゾゼミのアドニス型を採集

松井 正人

石川県白山市の高倉山から南東に延びる尾根に987m峰があり、尾根近くに林道がある。この林道のコンクリート水路の中で、腹面を上に向けてもがいていたセミを採集したところ、本県初記録となるアカエゾゼミのアドニス型だった。

2013年8月4日 白山市高倉山（標高870m）アカエゾゼミ（アドニス型）1♀ 松井正人

アカエゾゼミには色彩変異が知られ、腹部背面が黒色の基本型、腹部背面全体が橙色となるアドニス型、全身の黒色部分がほぼ消失し橙黄色となるコンコロール型がある。石川県では、これまでに3頭のアカエゾゼミが採集されているが、その中にコンコロール型1頭が含まれており、今回の採集を含め異常型の比率が高いように思われる。

■石川県で採集されているアカエゾゼミ

1980年8月10日 白山市三ッ谷（標高830m） 1♀ コンコロール型 武藤 明 武藤（1980）

2007年8月17日 白山市六万山（標高1010m） 1♂ 基本型 富沢 章 富沢（2007）

2011年8月13日 白山市下田原（標高850m） 1♂ 基本型 松井正人 松井（2012）

末筆ながら、現地への出入りについて御世話になった白山市の中村明男氏、文献の入手で御世話になった小松市の富沢 章氏に、お礼申し上げます。



石川県初記録のアドニス型アカエゾゼミ。後方は手取川ダム。

《 参考文献 》

松井正人（2012）石川県各地でアカエゾゼミを観察．翔(216):6-10.

武藤 明（1980）アカエゾゼミ石川県にも生息．昆虫と自然 15(14):8.

富沢 章（2007）灯火に飛来したアカエゾゼミ．とっくりばち(75):54.

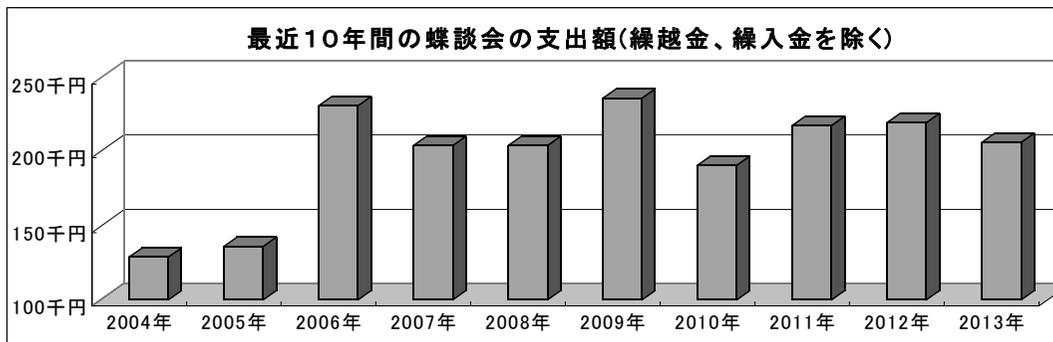
《まついまさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2013年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額 (円)	項 目	金額 (円)
2013年度会費	129,000	会誌作成費(6冊84頁)	163,800
当該年度以外会費	24,000	例会費(8回)	8,100
会誌売上金	20,500	石川県自然史センター会費	3,000
郵送負担金	18,500	郵送費	30,540
寄付金	37,100	消耗品費	1,020
前年度繰越金	0	次年度繰越金	3,740
		前年度繰入金	18,900
計	229,100	計	229,100

年会費は3,000円、郵送負担金は500円



表紙のむし - アシナガバチ -

私が育った処は住宅地だったためか、フタモンアシナガバチが身近で洗濯物に止まっていたのに気づかず2度刺された記憶がある。今の住まいは、近くに雑木林があることもあってかフタモンアシナガバチの姿は無く、キボシアシナガバチの他、キアシナガバチやセグロアシナガバチといった大型のアシナガバチを見ることが出来る。毎年、庭で営巣をいくつも観察するが、働き蜂が羽化する前に女王蜂が戻らなくなり廃巣になることが多く、巣が無事大きくなっても、盛夏以降はスズメバチの襲来の危険が待っている。自然は甘くないないつも思う。(表表紙はキボシアシナガバチ、裏表紙上はムモンホソアシナガバチ、中と下はフタモンアシナガバチ)

小幡英典

2012年アサギマダラ日記

松井正人

■ 5月13日 海岸アサギの初調査

快晴だったが風が冷たくて気温が上がらず、スナビキソウは咲いていたがアサギは見つからなかった。羽咋市一宮から輪島市深見にかけて砂が大きく削られ、深見では砂と一緒にスナビキソウがほとんど無くなっていた。唯一、志賀町赤崎だけは厚さ50cm程の砂が堆積していた。



砂もスナビキソウも総て波にさらわれ、岩だらけになった深見の海岸。

■ 5月18, 19日 マーキング説明会と初観察

18日午後には、今年からマーキングを始める輪島市の南志見小学校で、マーキングの説明会があり、午前中に志賀町から珠洲市にかけて海岸を回る。輪島市三子浜や珠洲市高屋では砂が大きく削られ、特に三子浜のスナビキソウは激減した。波が穏やかな珠洲市寺家では、繁茂したハマニンニクが花盛りで、花粉症の身では調査が辛い。



2008年6月5日珠洲市寺家。広い範囲にスナビキソウが生え、一部にハマニンニクが生えている。

19日、いつもなら「おにぎり」をもらって5時に宿を飛び出すところだが、寒いので、ゆっくりと朝食を取り、7時15分に出発し珠洲市の海岸を回る。寺家で3頭、狼煙で1頭、川浦で1頭と、珠洲の三大飛来地でアサギを観察。



2012年5月19日珠洲市寺家。ハマニンニクに覆われた海岸。

■ 5月26, 27日 輪島市三子浜で観察会

南志見小学校のアサギ観察会が早朝6時から開かれ、ほとんどの児童が集まったが、残念な事に両日共に1頭も

観察もできなかつた。かわいそうなのは子どもたち、早くアサギが見つかってほしいが、スナビキソウが満開なのに、アサギの飛来はまだ少ない。

■ 6月2日 能登は44頭、佐渡はゼロ

宝達志水町北川尻や羽咋市一宮で観察されるなど能登の観察は絶好調で、「すず」マークが志賀町で再観察された。佐渡では、藻浦と岩屋口でマーキング会が開かれ、青空の下、14人が9時から半日調査したが目撃も出来なかつた。

■ 6月7、8日 「ヒメ」は大波の中に

金沢周辺からはアサギの大波は過ぎ去ったが、奥能登は大波のまっただ中に有るようでアサギが涌いている。珠洲では、5日に続いて8日に2頭目の「ヒメ」が再観察され、佐渡の藻浦では7日に大脇 淳さんが24♂、北海道の奥尻島藻内では8日に対馬 誠さんがスナビキソウに飛来した3♂にマークしている。

■ 6月16日 雨の増穂浦

雨が強いので、アサギはいないだろうとネットを持たずに傘を差して海岸を歩くと、アサギが1頭舞い上がり、フワリフワリと飛んでいった。1頭だけだろうと一歩踏み出すと、今度は2頭が舞い上がる。あわてて車にネットを取りに行くと、既にアサギはいない。慎重に歩を進めると、1頭が舞い上がり、今度はネットに収まった。



5月29日に珠洲市川浦で砂山信一さんがマーキングし、6月2日に志賀町鹿頭で筆者が再観察したアサギ。



観察数を誇る狼煙のテトラポイント。港にもポイントがあり、6月7、8日には両ポイントで81頭、シーズンでは県内全体の40%となる418頭にマークされている。



志賀町増穂浦のスナビキソウ群落

■ 7月15日 医王山北方稜線

7月の医王山には、地元産第1化のアサギが集まる。涼しい早朝に出かけると林道脇のヨツバヒヨドリには新鮮なアサギがいくつも止まり、1時間で20頭程にマーク出来た事もあったが、今年はアサギが少なく、こっちに1頭、あっちに1頭の状態だった。



医王山のアサギポイントから見る砺波平野と北アルプス。林道脇には、たくさんのアサギがいるはずだった。

■ 8月7日 白山馬のたてがみ

アサギが紺碧の頭上を通り抜ける。8時台は4頭、9時台10頭、10時台16頭と増え続けたが、その後はだんだんと少なくなった。時折舞い降りるものもいて、イブキトラノオやタカネマツムシの花に止まった。標高2200mのお花畑は別天地だった。



色とりどりのお花畑からクロボコ岩を眺めていると頭上をゆったりとアサギが通り過ぎて行く。

■ 8月19日 白山周辺は秋の空

大道谷から、広くて舗装されている林道を快適に走る。尾根にさしかかる頃に舗装が切れ、道端にチラホラとヨツバヒヨドリが現れる。アサギがポツポツと止まっているが、ずんずん奥へ進むと日陰にアサギが群れていた。見上げると、いつの間にか夏空が秋に替わっていた。



■ 9月8日 宝達山で主役を待つ

今年の宝達山は、アザミが最高の状態で咲いている。龍宮城の橘さんが考えた早めの草刈りが功を奏し、草刈り後に伸びたアザミが花盛りを迎えている。ところが、主役のアサギがまだ飛んで来ない。

宝達山ではアザミの花にアサギが飛来する。道端のアザミが刈られないようにと看板を立てても、見通しを良くするために、親切な人に刈られていた。

■ 9月16日 宝達山への飛来が遅い

9月になると、そわそわして落ち着かず、時間さえ有れば宝達山に向かうが、今年はまだまだ暑いのかアサギが少なく、昨日までの総観察数は、ようやく100頭を越えた程度。今日もピークの気温は26度と暑く、アサギがほとんどいない。



白いタオルを回せば、アサギがいると直ぐに反応するが、どれだけ回してもアサギは飛んでこない。

■ 9月22日 さどマークが宝達山に飛来

午前中の飛来数は少なかったが、9時半に「さど」マークが見つかり士気は上々。ピークの気温は20度以上にはならなかったが、午後から観察数が増えだし、今日は今期一番の観察数130頭になった。



「さど」マークの再観察で、能登と佐渡の往来が初めて確認された。マークしたのは大脇 淳さん、ゲットしたのは「山の龍宮城」の橋 英子さん。

■ 10月8日 白山市のアサギマダラ園

良い天気誘われて中村明男さんご自慢のアサギ園へ。フジバカマが咲き乱れる白嶺小学校、少年自然の家、ミントレイノ、かんぼの郷と回ると、白嶺小にはアサギが舞い、ミントレイノにはネットが用意され、ハーブティーを飲みながら、おしゃれにマーキングできるようになっていた。



ミントレイノのおしゃれな空間で、あなたもマーキングしてみませんか。

■ 「さど」マークが全国デビュー

佐渡市山毛櫓ヶ平山で8月に本格的な夏マーキングが初めて行われ、366頭に標識された。これらが宝達山を皮切りに、滋賀、愛知、和歌山と次々に再観察された。

会員の動き・しゃばの動き

■スジアカクマゼミの広がり

競馬場でスジアカが発見されて12年、発生地周辺では、ゆっくりと分布を広げている。飛び離れた場所で鳴声を聞くこともあり、今年は石引で鳴いていたらしいが、いずれも交通量が多い道路脇だ。

■ツマグロヒョウモンの♀ばかり

この秋、横浜でガガイモを食べてカバマダラが大発生したが、石川県でも、1995年にガガイモで大発生している。その後は似た様なチョウが飛ぶと胸が高鳴るが、止まった姿はいつだってツマグロの♀。

■岐阜県の昆虫目録2013

11月30日に目録Iが発刊された。掲載種は、チョウ、トンボ、ハチ、シリアゲムシで、1982年以降の記録からなり、印刷物は5000円でCDR版も有る。今後は、ガ、コウチュウなど、順次CDR版を発行予定とかで、詳細は岐阜県昆虫同好会まで。

■100円ショップで買える酢酸エチル

最近、ハンコを持っていっても薬局では酢エチが買えず、残り一瓶チビチビ使っていたが、100均で売ってるらしい。ネールカラーの除光液に酢エチが使われていて、効果はほとんど変わらないとか。もちろん、ハンコも身分証明もいらぬ。

■キモイそれともカッコイイ

海洋堂カプセルミュージアムのイモムシコレクション。アゲハはプレミアが付くほどの人気らしいが、お気に入りはもちろんアサギマダラ。クロメンガタズメもカッコイイが、アケビコノハには手が出ない。

■まだ、ときめいていますか？

昆虫採集の醍醐味は、何と言っても珍品を見つけたときの胸の高鳴りだが、齢を重ねるに連れ、ときめかなくなってきた。何種類ものメガネを使い分けてピント調整する眼では、採集してから気付いたり、自宅に戻って整理をしながら気付く始末。時間の経過とともに、ときめきはどんどん小さくなっていく。

■移動調査は絶好調

全国でアサギマダラの再観察が相次ぎ、中国で2頭、台湾で8頭が見つかった。県内のマーキング数は8月以降で約4700頭。今のところ65頭が再観察されているが、白山マークの見つかる確率が高い。

■乾燥が追いつかない

毎日が日曜になり、採集、標本作りに励んでいる富沢氏、今年1年で5500頭の蛾の標本を作った。展翅板を買い足し、せつせと展翅しても乾燥が追いつかないとかで、乾燥機を予約したらしい。

■横山図鑑

叙情的な解説文で知られる横山光夫著「原色日本蝶類図鑑」によって、魅惑的な蝶の世界に引き込まれた同好者は多い。1954年に初版、1961年に増補版が印刷され、手元には箱がオオムラサキ、カバーがキリシマ、表紙がヒオドシチョウの1968年に印刷された増補改訂版がある。増補版は、箱がクジャクチョウ、カバーがギフチョウらしいが、初版は何だったのだろうか。解説文は、どこが改訂されているのか気になる。

■女子学生に声を掛けられたが

国内外の標本数を誇る指田氏、女子学生から「虫を集めてるんですか」と声を掛けられ、にっこりほほえんで答えたが、後に続いた言葉にガックリ落ち込んだ。学生曰く、「虫に興味は無いが、じいちゃんから聞いたことがある」。「父さん」ならまだしも、「じいちゃん」には参ったらしい。

■コブ採りにはまった

飼育したピカピカのセダカやナンキを見せびらかしていたかと思うと、いつの間にかヤクコブも飼っている。次なる獲物は大隅だとか言っていたが、さすがは会長、行動力は衰えていません。

■1月17日「むしの会」と合同新年会

おっさん虫屋に20代、30代の若手が交ざり、長老の徳本氏の挨拶、新婚めでたい大宮氏の乾杯で始まった。今回は参加できなかったが、昨年参加の女性虫屋こそ大宮夫人であり、大物をゲットした氏は終始にやけっぱなしで熱気に包まれた新年会だった。今年の参加の17人、場所は駅前よし久。

■ 例会 の 記 録 ■

12月12日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、富沢氏がシタバニハゴロモとスジアカクマゼミの現状に付いて語った。シタバニは、終息するかに思われたが、海岸付近のシンジュ70カ所を調べたところ加賀市から能美市にかけて10カ所で新たに見つかった。スジアカは、2008年の調査と比べると競馬場から東の方面に広がっているが国道8号線は越えていず、広がり方はきわめて緩慢。

その他の話題は、アサギの海外再観察が目白押し、屋久島のキリシマはウラジログアシで、いわくつきの交尾図鑑、φ80cmの特性ネット、展翅で腕を磨いたスーパー外科医、20年ぶりの参加、シタバニの綺麗な標本の作り方、などなど。

参加は、佐藤、浅地、吉村、山岸、勝海、浅野、細沼、松井、富沢、井村、福富、大宮の12人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

佐藤卓也：小松市内でツマグロヒョウモンの越冬幼虫を採集	1
浅地哲也：てっちゃんの甲虫も楽し その3	2
松井正人：アカエゾゼミのアドニス型を採集	3
松井正人：2012年アサギマダラ日記	5
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔 226号

Tobu 2014年2月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

